

1. 評価結果概要表

作成日

平成 20 年 10 月 9 日

【評価実施概要】

事業所番号	4070600657		
法人名	社会福祉法人ふらて福祉会		
事業所名	グループホーム森の家		
所在地	北九州市八幡東区山路松尾町13-25 〒 805-0033 (電話) 093-653-1711		
評価機関名	社会福祉法人 福岡市社会福祉協議会		
所在地	福岡市中央区荒戸3-3-39		
訪問調査日	平成20年10月3日	評定確定日	平成20年11月19日

【情報提供票より】(平成 20 年 9 月 10 日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 15 年 10 月 1 日					
ユニット数	3 ユニット		利用定員数計		27 人	
職員数	24 人	常勤	24 人	非常勤	人	常勤換算 24 人

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート 造り
	3 階建ての ~ 1 ~ 3 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	23,000 円	その他の経費(月額)	円
敷金	有 (円)	無	
保証金の有無 (一時金を含む)	有 (300,000 円) 無	有の場合 償却の有無	有 無
食材料費	朝 食 円	昼 食 円	
	夕 食 円	おやつ 円	
	または1日あたり 1,500 円程度		

(4) 利用者の概要(9 月 10 日現在)

登録人数	27 名	男性	3 名	女性	24 名
要介護 1	3 名	要介護 2	11 名		
要介護 3	6 名	要介護 4	6 名		
要介護 5	1 名				
要支援 1	名	要支援 2	名		
年齢	平均 84 歳	最低 62 歳	最高 94 歳		

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	西野病院 / 白石歯科医院
---------	---------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

介護老人保健施設を運営する母体病院が、家庭的な雰囲気の中で利用者とゆっくりとかかわりを持ちたいという思いから開設したホームである。母体病院、ケアハウス、グループホームが取囲むように自然の地形を利用したイングリッシュガーデン風の中庭があり、利用者は日々の暮らしの中で花の変化や鳥の訪れを感じながら精神的な安らぎを得ている。ケアプランに関して、個人の生活歴の把握や情報の分析が細部にわたっており、医療・生活支援・自立支援の観点に立ち、利用者の望むことや出来ることなどを取り入れた具体的で詳細な介護計画を作成している。また、利用者の精神面でのかわりへも配慮した介護計画の作成と取組みがある。今後、地域住民とともにさらなる認知症の予防活動への取組みを期待したい。

【重点項目への取組状況】

重点項目	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の外部評価結果について、運営推進会議に報告を行い、職員へは職員会議時に内容を周知し協議を行うなどの取組みがある。前回の外部評価を受けて、災害時の備蓄の準備や水分摂取量の把握などの改善が見られた。</p>
重点項目	<p>今回の自己評価に対する取組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>全職員へ外部評価の説明を行い、内容について職員の気づきを出しあってもらうなど、全職員がかかわっての外部評価への取組みがある。この過程において、日々のケアへの取組みに対する気づきが生まれるなど、質の向上に向けた改善が見られた。</p>
重点項目	<p>運営推進協議会の主な検討内容及びそれを活かした取組み(関連項目:外部4,5,6)</p> <p>民生委員、自治会会長、人権擁護の委員、地域包括支援センター職員、消防署職員、併設病院の医師、家族などの参加により2ヵ月に1度の開催がある。地域の方々から地域の中での話題や問題を提起していただいて協議がなされる等、活発な意見交換、情報提供の場となっている。</p>
重点項目	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部8,9)</p> <p>家族会、面会時、ホームだより、毎月の活動状況及び利用者の写真や手紙を添えた利用者毎のたよりの送付などを通じて報告がある。利用者の写真を添付したメールを利用しての状況報告など、一人ひとりに合わせた対応がある。家族会や日常のかかわりなどを通じて表出した家族の様々な要望に対して、職員間で協議し、日程をあわせて計画だてて対応したり、家族と一緒に介護計画を作成するなどの取組みがある。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>図書館や美術館の利用、その都度の買い物、作品展への出品、地域の児童に民話を語るなど、利用者の希望や今ある力を利用して、地域との交流・連携への取組みがある。</p>

2 . 調 査 報 告 (詳 細)

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
理念に基づく運営					
1 理念の共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続ける ことを支えていくサービスとして、事業 所独自の理念をつくりあげている	理念の中に「地域との関係性」が謳われている。尊厳をもって対応し、利用者一人ひとりの 生活の再構築を目指しており、介護計画は理念 を意識した内容であり、理念に基づいたケアへ の取り組みがある。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し理念の 実践に向けて日々取り組んでいる	名札の裏に理念が明記されており、常に理念 を意識した働きかけがなされている。毎月の全 体会議や朝の申し送り時、その時々ケアを通 じて説明・指導が行われるなど、理念の実践に 向けた取り組みがある。		
2 地域との支え合い					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員と して、自治会、老人会、行事等、地域活 動に参加し、地元の人々と交流すること に努めている	図書館や美術館の利用、その都度の買い物、 作品展への出品、地域の児童に民話を語るな ど、利用者の希望や今ある力を利用して、地域 交流への働きかけがある。		
3 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及 び外部評価を実施する意義を理解し、評 価を活かして具体的な改善に取り組んで いる	全職員へ外部評価の説明を行い、内容につい て職員の気づきを出しあってもらうなど、全職 員がかかわっての外部評価への取り組みがある。 この過程において日々のケアへの取り組みに対す る気づきが生まれるなど、質の向上に向けた改 善が見られた。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービス の実際、評価への取り組み状況等につい て報告や話し合いを行い、そこでの意見 をサービス向上に活かしている	民生委員、自治会会長、人権擁護の委員、地 域包括支援センター職員、消防署職員、併設病 院の医師、家族などの参加により2ヵ月に1度の 開催がある。地域の方々から地域の中での話題 や問題を提起していただいて協議がなされる等 活発な意見交換、情報提供の場となっている。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議やホーム行事への地域包括支援センター職員の参加、介護相談員の受け入れなど、連携を図っている。グループホーム協議会を通じて、行政担当職員と意見交換を行ったり、認知症の啓発活動を行うなどの取り組みがある。		
7 追加	10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	運営推進会議時に講師を招いて勉強会を開催し、制度に関する資料を配布し説明を行うなどの取り組みがある。また、会議に参加出来なかった家族に対して資料を配布し説明するなど、理解を深めるための取り組みがある。		
4 理念を実践するための体制					
8 (7)	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	面会時の説明、ホームだより、毎月の活動状況や利用者の写真を掲載し、手紙を添えた利用者毎のたよりの送付などを通じて報告がある。また、利用者の写真を添付したメールを利用した状況報告など、一人ひとりに合わせた対応がある。		
9 (8)	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会や日常のかかわりなどを通じて表出した家族の様々な要望に対して、職員間で協議し、日程をあわせて計画だてて対応したり、家族と一緒に介護計画を作成するなどの取り組みがある。		
10 (9)	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動や離職時には、1ヶ月の引継期間を設けるなど、馴染みの関係づくりへの取り組みがある。中堅職員が指導・相談係として新しい職員にかかわるなどの取り組みがある。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5 人材の育成と支援					
11	19 追加	<p>人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。</p> <p>また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している</p>	<p>職員の採用に関しては、年齢や性別などによる制限はなく、笑顔や言葉使い等を重視している。職員の得意とすることを日常のケアの中に活かしつつ、利用者とともにガーデニングを勉強するなど、常に向上していこうとする姿が伺えた。資格取得を目指す職員に対しては、法人全体で勉強会を開いたり、勤務調整を行うなどの支援体制がある。</p>		
12	20 追加	<p>人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる</p>	<p>年1回、様々な事例を取り上げての研修を通じて、人権教育・啓発活動への継続的な取り組みがある。</p>		
13 (10)	21 (19)	<p>職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>法人本部での研修会やグループホーム全体での月に1度の勉強会が実施されている。外部研修の情報提供を行い、職員の参加を募ったり、管理者が職員を振分けるなど、各種研修への参加機会がある。</p>		
14 (11)	22 (20)	<p>同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>グループホーム協議会主催の勉強会や研修、様々な行事やフォーラム等への参加を通じて、他の事業所との交流・連携への取り組みがある。年に1度の親睦会を兼ねた1泊研修に、管理者・職員が参加するなど、サービスの質の向上への取り組みがある。</p>		


外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15 (12)	28 (26)	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	面談や見学、体験利用、1週間ほど昼間のみの利用などを通じて、徐々に馴染めるように配慮している。入居直後の利用者に対しては、職員が傍に寄り添いかかわりを多く持つことを意識し、頻回な家族面会など、精神的な落ち着きが得られるような取り組みがある。		
2 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16 (13)	29 (27)	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者一人ひとりの生きざまを通じて精神的な部分で感じ、学ぼうとする姿勢がうかがえる。また、土の耕し方や苗の植え方、料理の仕方、ご祝儀や謝礼金の話など、日常のかかわりの中で学び支えあう関係作りへの取り組みがある。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1 一人ひとりの把握					
17 (14)	35 (33)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	面会時やその都度の電話連絡、手紙を添えた利用者毎のたよりの送付、日常のかかわり等を通じて利用者・家族の思いや希望を把握している。把握した思いや希望は、センター方式及びオリジナルのアセスメントに記入するなど、情報共有への取り組みがある。		
2 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18 (15)	38 (36)	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	担当職員が、利用者・家族の思いや希望を基に、他の職員の意見を聞きながら介護計画を作成し、作成された介護計画は、管理者が確認し、全職員での検討がある。介護計画書の内容は、利用者の望むことや出来る事などに着目した内容である。		
19 (16)	39 (37)	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎月のスタッフ会議において、利用者一人ひとりのケア内容の見直しが行われており、職員の気づきをとりとめ、情報の共有に努めている。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3 多機能性を活かした柔軟な支援					
20 (17)	41 (39)	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に 応じて、事業所の多機能性を活かした柔 軟な支援をしている	認知症の正しい理解と予防について、地域の 様々な場を利用したのレクチャーの実施、地域 住民からの地域に住む対象者に対する相談等 に対して、専門関係機関に繋げるなど、地域や地 域住民に対する支援が行われている。		
4 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
21 (18)	45 (43)	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納 得が得られたかかりつけ医と事業所の関 係を築きながら、適切な医療を受けられ るように支援している	入居時に説明を行い、今までのかかりつけ医 がホーム協力病院の利用かを自由に選ぶことが できる。今までのかかりつけ医及び皮膚科や眼 科等の受診は家族対応であるが、状況に応じて ホーム対応での受診がある。		
22 (19)	49 (47)	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方につ いて、できるだけ早い段階から本人や家 族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し 話し合い、全員で方針を共有している	ホーム協力病院との連携の基、看取りを行う 方針である。入居時に「意向の確認書」として 家族から同意を得ている。希望や環境等の変化 に応じてその都度の説明がある。利用者の意向 の確認は行われているも、全利用者に対して記 録するまでには至っていない。		重度化や終末期における利用者の思いの確 認を再度行っていただき、把握された思いに ついては今利用されているセンター方式に記 録するなど、情報の共有に努め、本人の思い に沿った支援を期待します。

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1 その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
23 (20)	52 (50)	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損 ねるような言葉かけや対応、記録等の個 人情報の取り扱いをしていない	職員採用にあたり言葉使いを重視しているだ けあって、どの職員も利用者一人ひとりに応じ た丁寧な受け答えであった。また、利用者の精 神面でのかわりに配慮した取組みとして、利 用者へ感謝の言葉を述べるなどの具体的な対応 内容を介護計画書中に記して統一した対応を 行っている		
24 (21)	54 (52)	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するの ではなく、一人ひとりのペースを大切に し、その日をどのように過ごしたいか、 希望にそって支援している	日中の過ごし方、食事をとるタイミングや食 事にかかる時間、起床の時間など、利用者一人 ひとりの生活リズムやペースを尊重した対応が みられた。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25 (22)	56 (54)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人 ひとりの好みや力を活かしながら、利用 者と職員が一緒に準備や食事、片付けを している	利用者の希望に応じて献立を作成している。 職員と利用者は、利用者の出来る事や得意なこ とを把握して、材料の下ごしらえや調理などを 協力して行っている。職員と利用者は一緒に テーブルを囲み、様々な話題が聞かれるなど、 和やかで楽しい食事場面であった。		
26 (23)	59 (57)	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてし まわずに、一人ひとりの希望やタイミン グに合わせて、入浴を楽しめるように支 援している	基本は午後からの入浴実施である。利用者の 予定に応じて午前中入浴の実施、夏場のシャ ワー浴、夕方からの入浴など、その時々の利用 者の希望や状況等に応じた支援がある。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27 (24)	61 (59)	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせる ように、一人ひとりの生活歴や力を活か した役割、楽しみごと、気晴らしの支援 をしている	アクティビティケアの中に利用者の望むこと や出来ることなどを取り入れ、介護計画に反映 させている。お茶や生け花、陶芸等の趣味の継 続、「語り部」としての朗読、挿絵の作成、 キーボード演奏など、利用者の今ある力を活か しての取り組みがある。		
28 (25)	63 (61)	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひ とりのその日の希望にそって、戸外に出 かけられるよう支援している	日々の買い物、地域公民館、図書館、美術館 の利用、近隣の公園へのドライブ、ホーム中庭 の散歩、併設施設でのレクリエーションの参加な ど、利用者の希望に沿った外出支援がある。		
(4) 安心と安全を支える支援					
29 (26)	68 (66)	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中 玄関に鍵をかけることの弊害を理解して おり、鍵をかけないケアに取り組んでい る	各ユニットの出入り口は、日中は開錠されて いる。出入り口にセンサー付きのチャイムを設 置しているが、チャイムだけに頼らず、さりげ ない所在確認と利用者の様子をよく観察したう えで、中庭を散歩するなど、利用者の自由な生 活の支援がある。		
30 (27)	73 (71)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜 を問わず利用者が避難できる方法を身に つけ、日ごろより地域の人々の協力を得 られるよう働きかけている	年2回、消防署立会いのもと、併設事業所と ともに避難訓練が行われている。また、3ヵ月 に1度のホーム単体での避難訓練への取組みが ある。日常の地域との交流や町内会の会議など を通じて、緊急時の協力が得られている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31 (28)	79 (77)	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一 日を通じて確保できるよう、一人ひとりの 状態や力、習慣に応じた支援をしてい る	利用者の希望に応じて献立を作成し、1ヶ月 分の献立内容を併設病院の管理栄養士にチェッ クしてもらい指導を仰ぐなどの取組みがある。 食事量及び水分摂取量を記録し、必要に応じて 水分補給を促すなどの支援がある。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2 その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
32 (29)	83 (81)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台 所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者 にとって不快な音や光がないように配慮 し、生活感や季節感を採り入れて、居心 地よく過ごせるような工夫をしている	ホーム出入り口及び各ユニット内は、季節の 生花や栗や柿の実などがさりげなく飾られてお り、季節を意識した装飾が施されている。ホー ム中庭は、イングリッシュガーデン風の造りと なっており、利用者は日々の暮らしの中で花の 変化や鳥の訪れを感じることができている。		
33 (30)	85 (83)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や 家族と相談しながら、使い慣れたものや 好みのものを活かして、本人が居心地よ く過ごせるような工夫をしている	各居室内は、テレビや趣味の本、旅行先の写 真、家族の写真、装飾品など、馴染みの物が持 ち込まれていた。また、各居室の小窓には利用 者の思い出の品が飾られ、利用者の人となり が伺えた。		

 は、重点項目。
(数字)は、国の標準例による番号